

山家悠紀夫『日本経済 30 年史』岩波新書 2019 年

第 6 章「構造改革」とは何であったか（第 4 章～第 5 章への補論）

問題提起

「『投資』への窓口を広げ、商品を多様化させ、減税をする……。これらは家計の金融資産を『投資』へと向かわせる政策だが、一方で資産を『貯蓄』から追い出すための政策をしてきた」(p91L1)と政府は必死に「貯蓄」から「投資」へと家計のお金を動かそうとした。しかし、人々は老後の資産や子どもの進学貯え、いざという時のために「投資」ではなく「貯蓄」を選択することが多い。どうすれば「投資」が人々に選択されるようになるか。